お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店にお気軽にお申しつけください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた芝刈機で安全かつ能率的な芝刈り作業をする手助けとして編集されたものです
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について
この取扱説明書は
—芝刈り作業をするときは、必ず携帯してください。
—本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
—紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 7
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 9
燃料コック レバー ……11
始動グリップ ……11
エンジン回転調整レバー ……12
刈刃クラッチ レバー ……12
走行クラッチ レバー ……13
刈取り高さ調整レバー ……14
収納袋 ……15
作業前に点検、調整しましょう ……16
作業前の点検 ……16
ガソリンの点検 ……17
エンジン オイルの点検 ……18
エア クリーナ（空気清浄器）の点検 ……19
刈刃の点検 ……20
各部の締付けの点検 ……22
収納袋の点検 ……22
エンジンのかけかた ……23
運転操作のしかた ……25
1．刈取り高さの調整 ……25
2．エンジン始動 ……26
3．運転操作 ……26
4．刈取り作業 ……27
5．収納袋の脱着 ……29
エンジンのとめかた ……30
定期手入れを行いましょう ……32
定期点検 ……32

やさしい点検・整備 ……33
エンジン オイルの交換 ……33
エア クリーナ（空気清浄器）の清掃 ……36
点火プラグの清掃、調整、交換 ……37
走行クラッチ ケーブルの調整 ……38
刈刃クラッチ レバーの作動点検 ……39
長期間使用しないときの手入れ ……40
故障のときは ……43
主要諸元 ……44
ハンドルの組付けかた ……45

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を行い本機を常に良好な操作状態においてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して給油限界位置を超えないように補給し、燃料タンクキャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。
- 屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

警告

- 衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないように作業に適した服装をし、防護メガネ、作業に適した靴などを用いて作業してください。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- 土や砂利などの上では刈刃を回転させないでください。石などの異物が飛び出すおそれがあります。
- 収納袋を取りはずして作業しないでください。刈取った芝や小石などが飛び出し大ケガをするおそれがあります。
- 収納袋を取りはずすときは、エンジンを停止してください。
- 本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
- 本機を使用する前に収納袋を点検してください。すり切れたり穴のあいている物、また縫い目がほころびている物は新品に交換してください。
- 本機は5℃以上40℃以下の環境でご使用ください。外気温が4℃以下になる様な環境で使用すると、防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。
- 本機は芝刈り以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 芝が濡れていたり、雨天のときは芝刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

●作業中

- エンジンが始動すると同時に刈刃も回転します。手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤ってさわると大ケガをします。
- 作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。作業範囲内に人や動物などを近づけないでください。もし人や動物が近づいたら作業を停止してください。
- 作業中はハンドルをしっかり持ち足元に注意して行ってください。転倒するおそれがあるので走らず本機の速度に合わせ作業してください。

警告

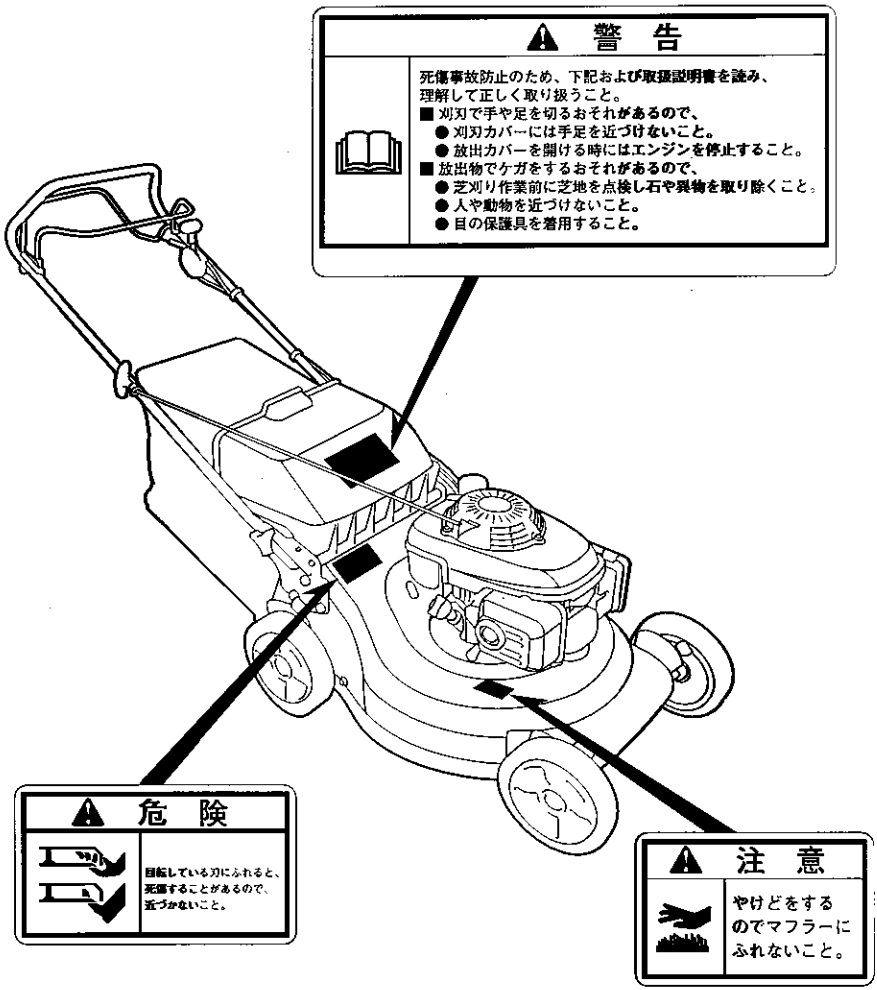
- 傾斜地での芝刈りは、上下方向でなく、横方向（等高線方向）に行ってください。また急な斜面では作業しないでください。転倒するおそれがあります。
- 本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。
- エンジン運転中は、刈取り高さの調整をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。
- 作業中障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するために点火プラグ キャップをはずし（37頁参照）、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。
- エンジンをかけたまま本機を芝の上に放置しないでください。マフラの熱で芝をこがしてしまうばかりでなく、誤って操作されると思わぬ事故の原因となることがあります。

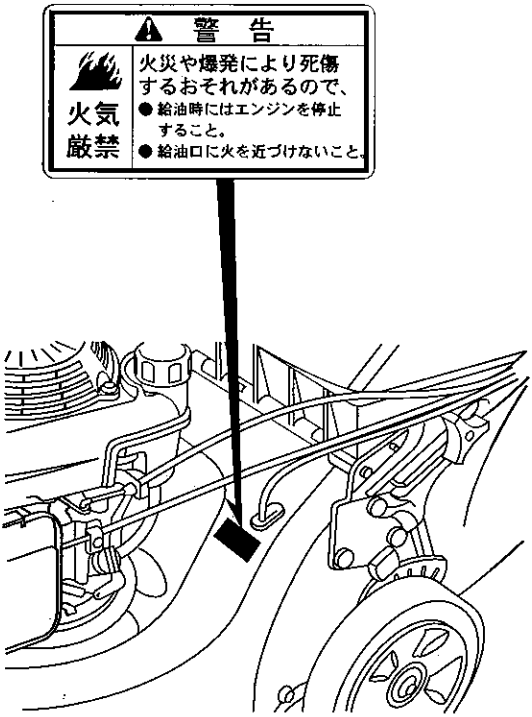
●作業が終わったら

- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料を抜取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- 車への積み降しは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。
- 運搬時には、転倒や落下しないよう確実に固定してください。また燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。

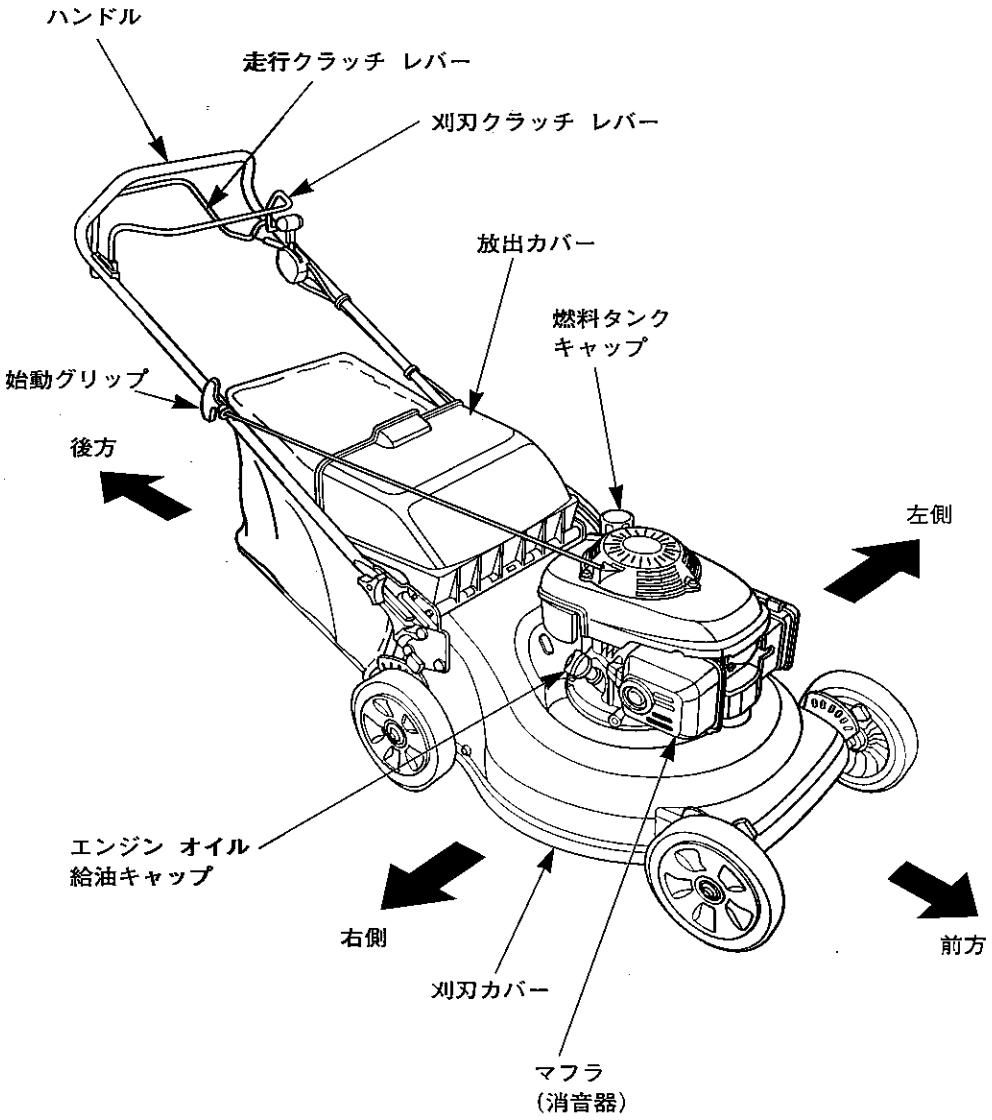
●安全ラベル

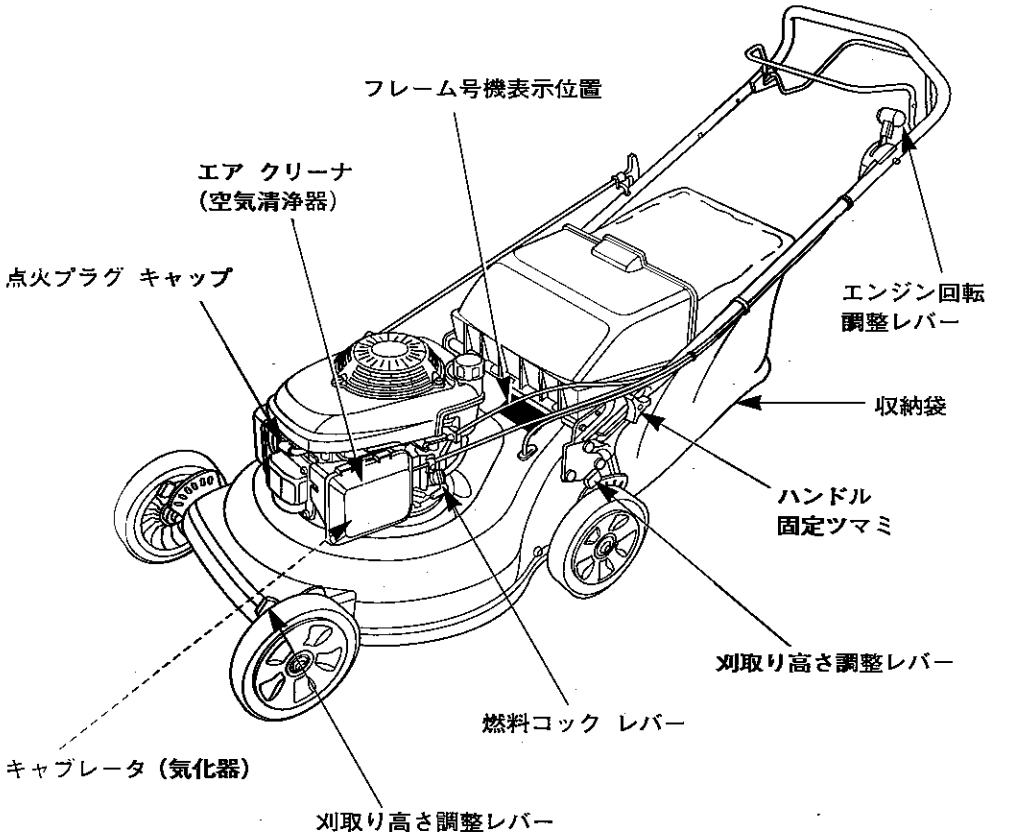
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全て読んでからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




警 告
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
● 給油時にはエンジンを停止すること。
● 給油口に火を近づけないこと。
火気厳禁

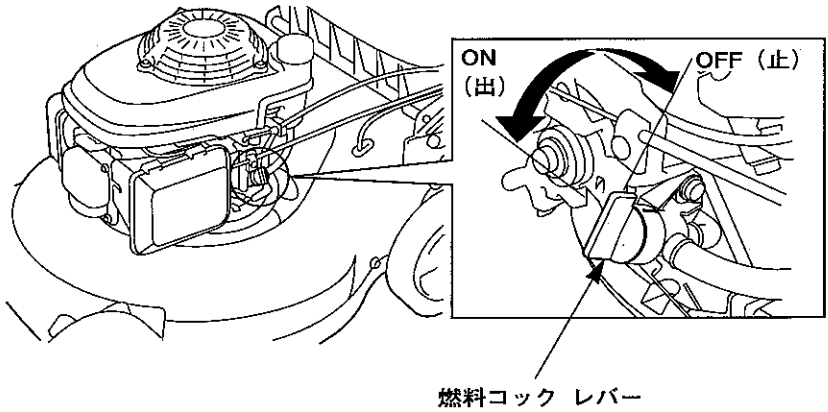
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




フレーム号機表示位置
エア クリーナ
(空気清浄器)
点火プラグ キャップ
エンジン回転
調整レバー
収納袋
ハンドル
固定ツマミ
刈取り高さ調整レバー
燃料コック レバー
キャブレータ(気化器)
刈取り高さ調整レバー

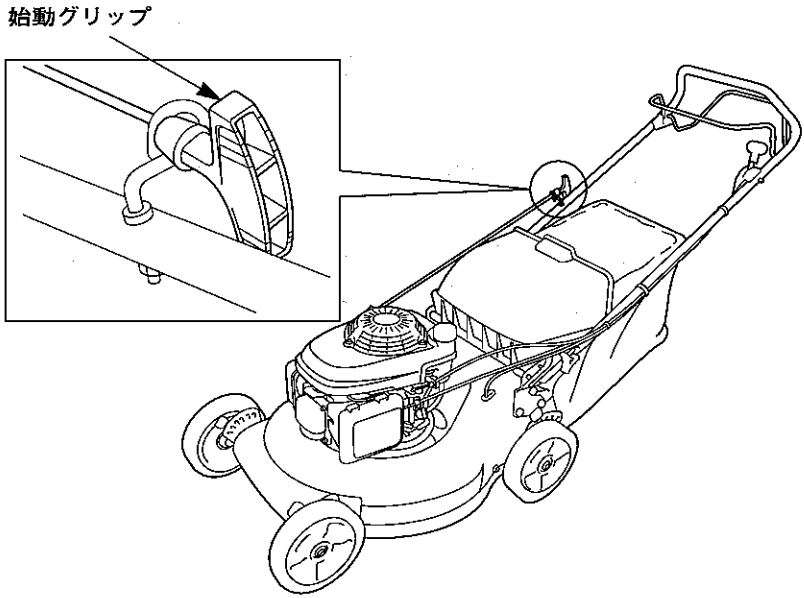
燃料コック レバー

燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に“**OFF**”（止）、“**ON**”（出）の位置に合わせてください。



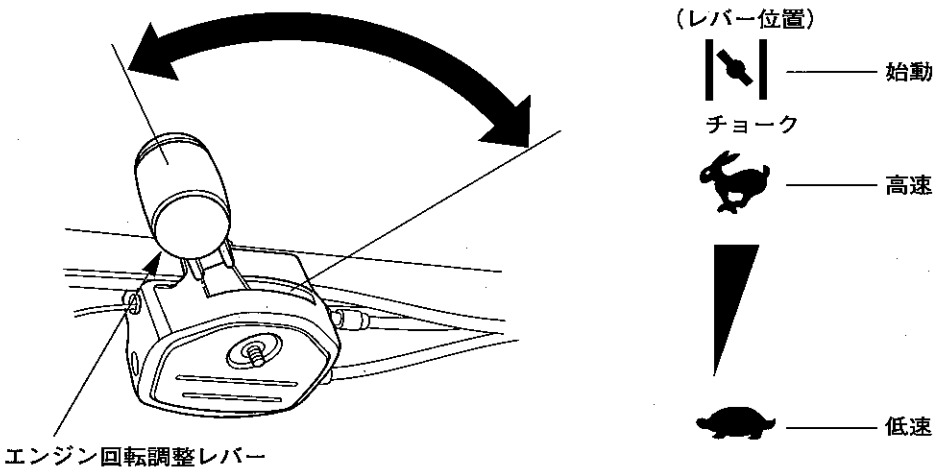
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



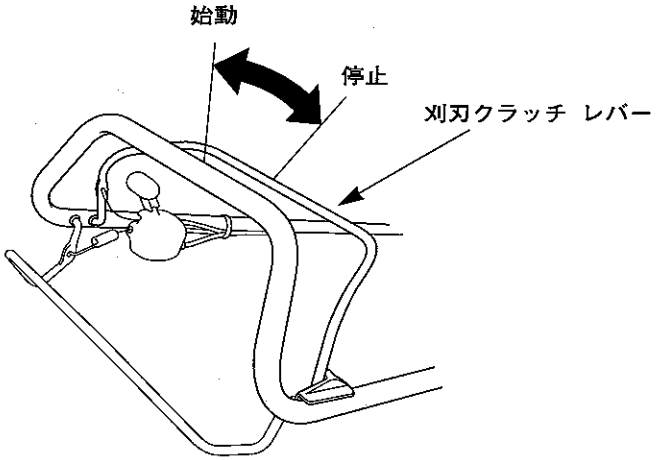
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
エンジン始動時、運転中に操作します。



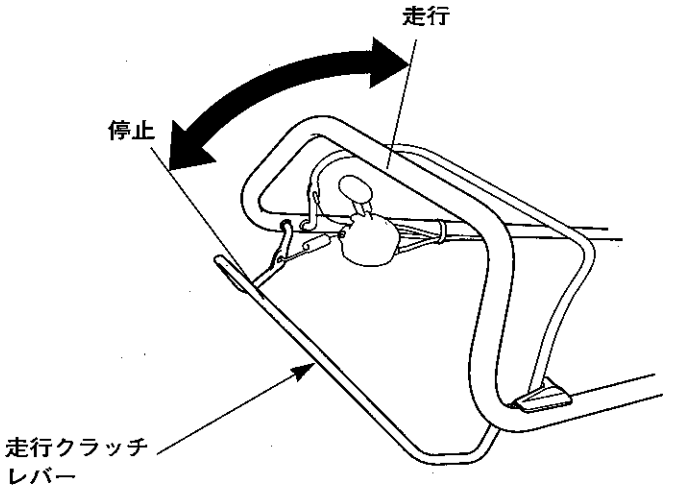
刈刃クラッチ レバー

エンジンを始動、停止、刈刃を回転、停止するときに操作します。
刈刃クラッチ レバーを“**始動**”の方向に握ると、エンジンを始動できます。
エンジンが始動すると刈刃が回転します。
レバーをはなすと刈刃とエンジンが停止します。



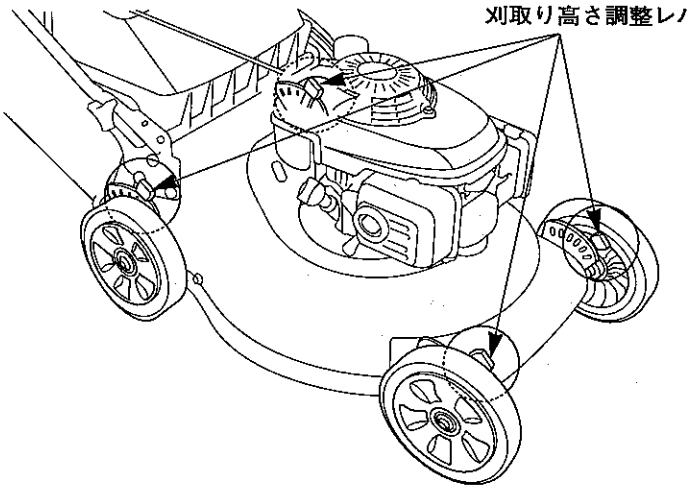
走行クラッチ レバー

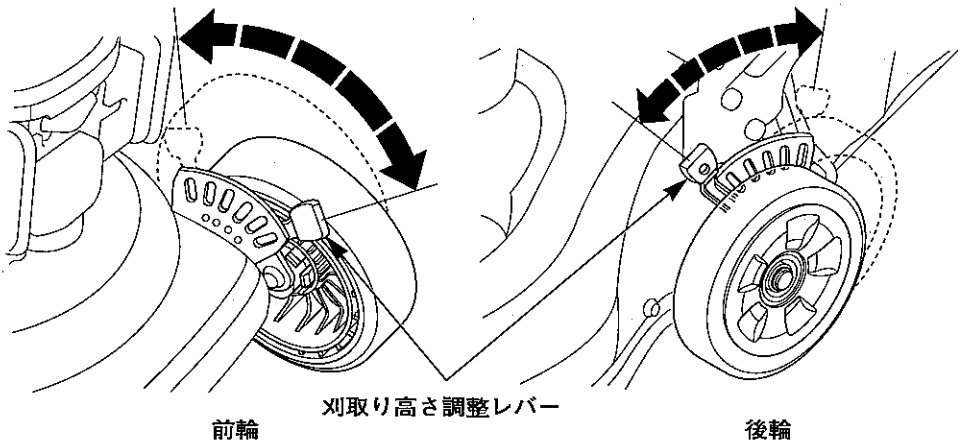
エンジンが回転しているときに走行クラッチレバーを握ると前進し、はなすと止まります。



刈取り高さ調整レバー

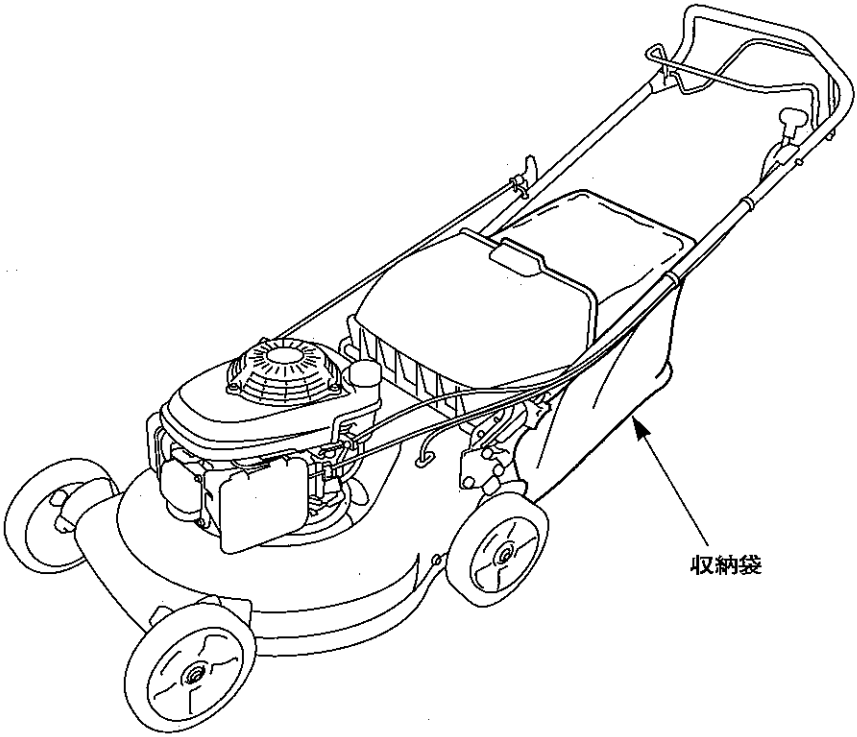
芝の刈取り高さを調整するときに操作します。レバーを操作して位置を変えることによって6段階に刈取り高さを調整できます。(25頁参照)





収納袋

刈取った芝を収納する袋です。



作業前に点検、調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にしてエンジンを止め、誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップをはずしてください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなくあなたや、あなたのまわりの人に大ケガをさせるおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください

- 本機のまわり……燃料の量（17頁参照）、エンジン オイルの量（18頁参照）は規定量はいっていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジンのまわりにゴミ、枯れ草などはないですか。
- レバーの作動……引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
  （走行クラッチ レバー、刈刃クラッチ レバーの点検・調整は38、39頁参照）
- 刈刃の状態……刈刃締付けボルトにゆるみはないですか。
  刈刃に割れ、欠損、曲がり、摩耗はないですか。
- 各部の締付け……各ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……被覆の破れや切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないです。
- エンジンの始動、停止…エンジン始動時に異音はないですか。
  エンジンは確実に停止しますか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店にお申しつけください。

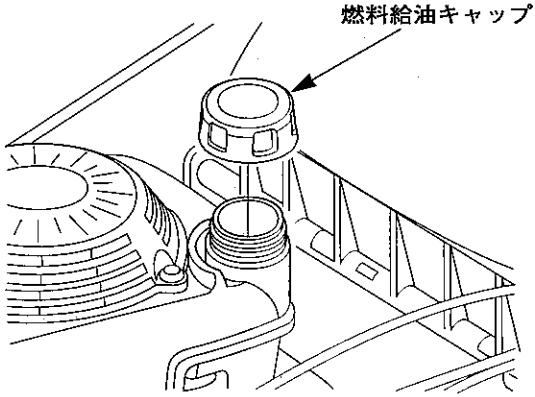
ガソリンの点検

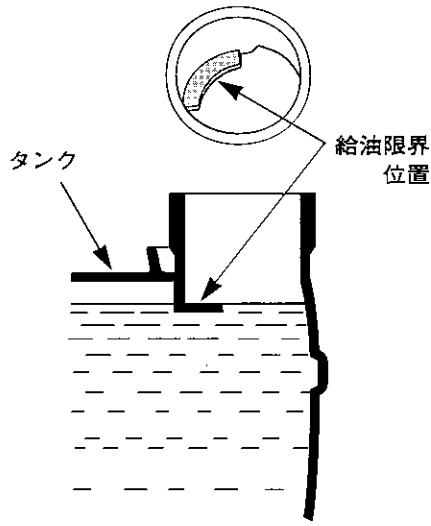
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点　検

燃料給油キャップを外し、ガソリンがあるか点検します。
少ない場合は補給してください。





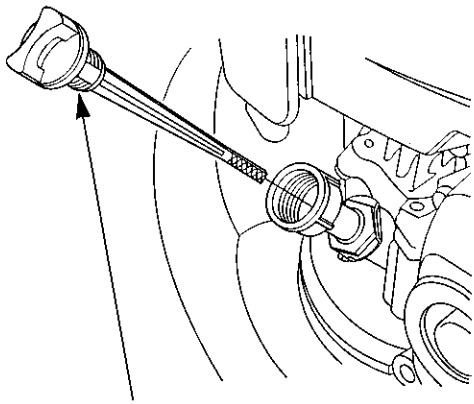
補　給

使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
タンク容量：**1.1** ℓ
・燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
・補給後、燃料給油キャップを完全に締付けてください。

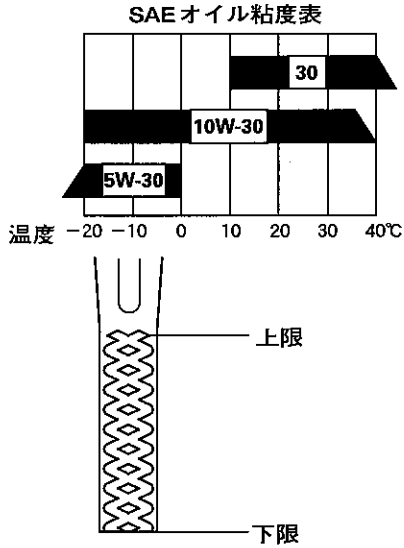
エンジン オイルの点検

点　検

オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。
油面が下限を下まわっているときは、上限までオイルを補給してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は33頁参照)



オイル給油キャップ/レベル ゲージ



補　給

・オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限以内まで補給します。
規定量：0.55 ℓ

・推奨オイル（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正 ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

- 低温時（気温10℃以下）では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

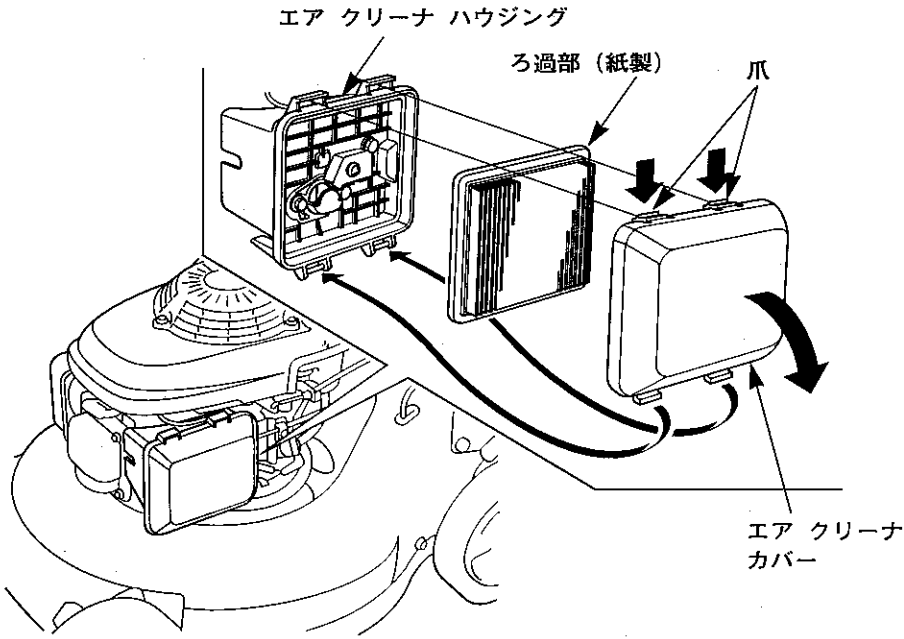
エア クリーナ（空気清浄器）の点検

点　検

1．エア クリーナ　カバーの爪を押し下げて、エア　クリーナ　ハウジングからカバーを取外します。
2．エア　クリーナ　ハウジングからろ過部を取外し、ろ過部の汚れを点検します。
3．汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃または交換を行ってください。
（清掃方法は36頁参照）

取扱いのポイント

・エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エア　クリーナ　カバーやろ過部（紙製）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。



刈刃の点検

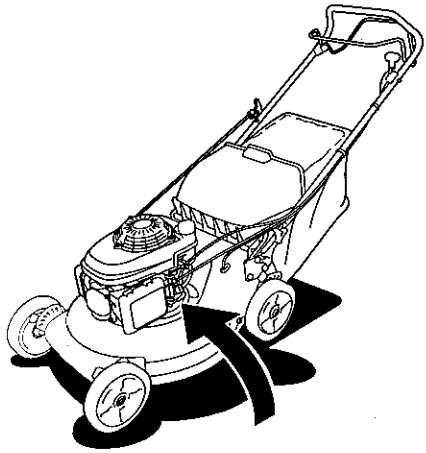
⚠警告

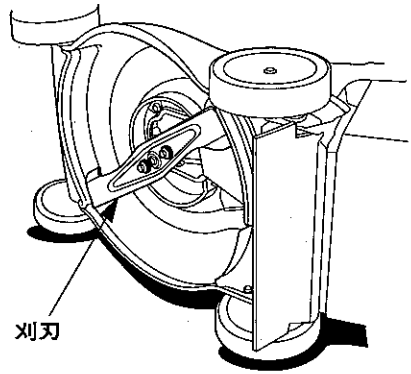
・作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当るなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。交換するときはお買いあげ販売店にご相談ください。
・刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグ キャップをはずしてから厚手の手袋を装着して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
・本機を左側（キャブレータ側）に倒さないでください。ガソリンがこぼれ危険です。

1．エンジンを停止し、点火プラグ キャップを外します。
2．燃料コック レバーを**“OFF”**（止）にします。
3．本機を右側に倒します。

⚠警告

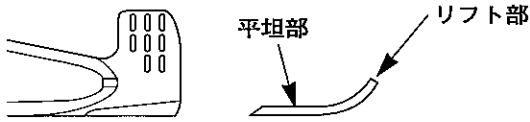
本機を傾けるとガソリンが洩れる場合があります。
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。





4．刈刃の割れ、欠損、曲り、摩耗を点検します。

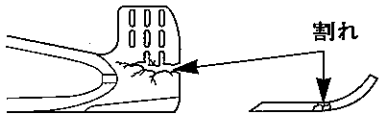
新品



・刃先が摩耗して丸くなってきたらお買いあげ販売店で研いでください。
・下図のように異常な状態になっていたらお買いあげ販売店で交換してください。

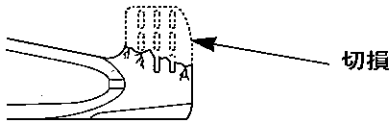
交換

割れ

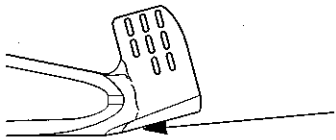


⚠警告

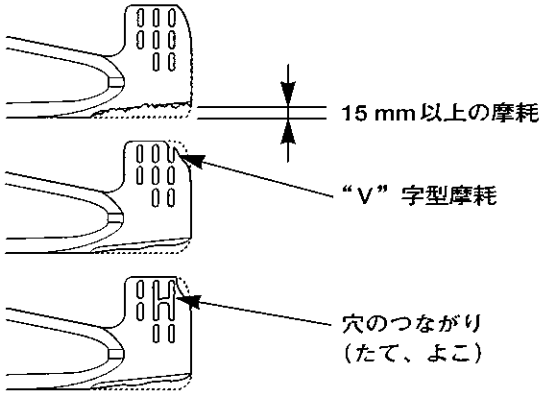
特にリフト部に割れが発生すると、刃先が切損して飛び出すおそれがあるので使用しないでください。



曲り



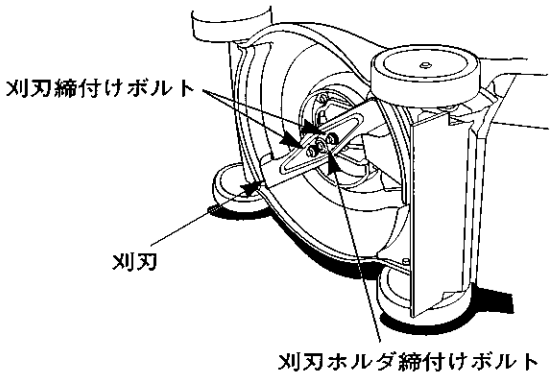
摩耗



・乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早いため頻繁に点検してください。

各部の締付けの点検

・刈刃締付けボルト、刈刃ホルダ締付けボルトの締付けは完全ですか。
・ハンドル固定ツマミのゆるみはないですか。



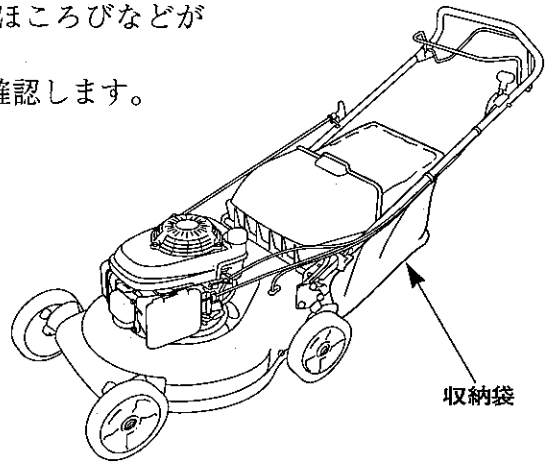
収納袋の点検

⚠警告

収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷している場合は新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。

点　検

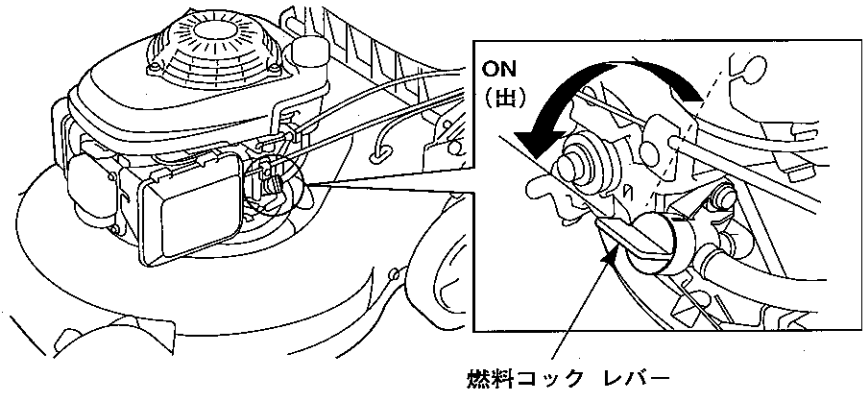
1．目詰まりがないか点検します。
　収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。水洗いし十分に乾燥してから使用してください。
2．すり切れ、破れ、縫い目のほころびなどがないか点検します。
3．確実にセットされているか確認します。
　（脱着方法は29頁参照）



⚠警告

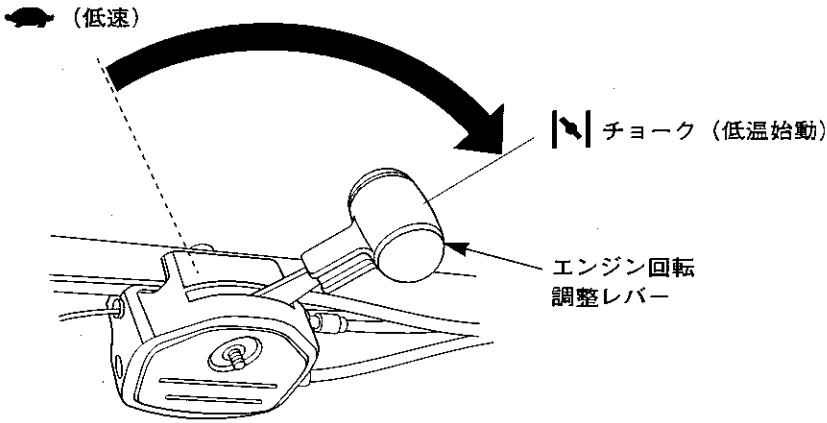
屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

1．燃料コック レバーを“**ON**”（出）に合わせます。



2．エンジン回転調整レバーを“**チョーク**”（**低温始動**）の位置にあわせます。

・エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときは“　”（低速）の位置で始動します。



3．刈刃クラッチ レバーを“**始動**”の方向に握り、芝刈機のハンドルをしっかり押え始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

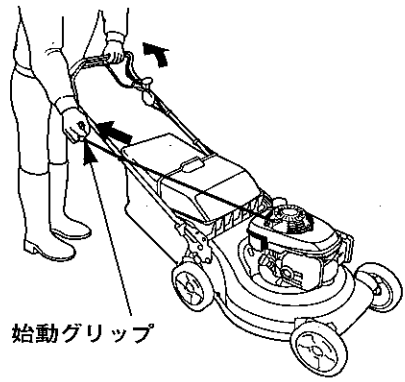
⚠警告

エンジンを始動すると刈刃が回転します。石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがありますので、人身および物損事故が起きないよう始動時には十分注意してください。

取扱いのポイント

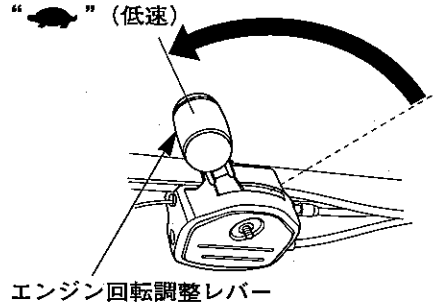
始動グリップを引き上げた位置から手をはなさないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

・エンジンの始動は、芝刈機が安定する平坦な場所で行ってください。
・始動グリップを引くとき、後方に人がいないか確認してください。



4．２～３分間暖機運転を行います。
“**チョーク**”の位置で始動したときはエンジン回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを“🐢”（**低速**）にします。

・暖機運転を行うことは、エンジン各部にオイルをゆきわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



取扱いのポイント

芝の上での暖気運転はさけてください。マフラなどの熱により芝が変色することがあります。

芝刈り作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり芝刈り作業にとりかかってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

1 刈取り高さの調整

⚠警告

刈取り高さの調整をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップをはずしてください。

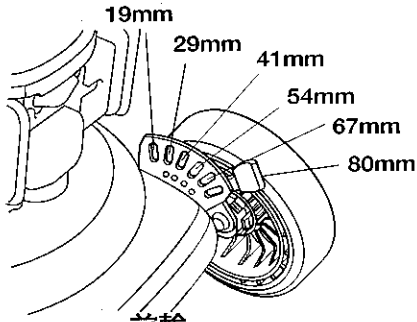
刈取り高さ調整レバーにより6段階（約19～80mm）まで調整ができます。調整レバーは前輪、後輪とも左右両側にあります。

《調　整》

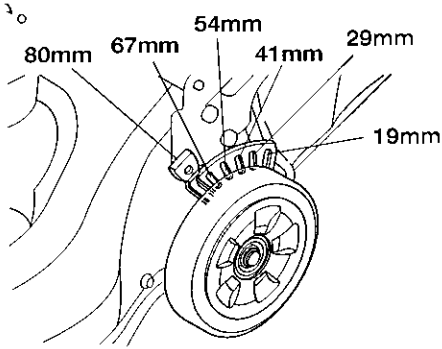
1．厚手の手袋をし本機を少し持ち上げてください。

2．レバーをタイヤ側に引き、調整溝に入れてください。

・伸びた芝を刈取る場合は最初刈取り高さを高くして刈取り、次に刈取りたい高さまで低くして刈取ってください。



前輪



後輪

取扱いのポイント

・刈取り高さ調整レバーは前後、左右とも同じ位置にしてください。芝刈機が不安定になったり、仕上がりが不均一になることがあります。

・確実に調整レバーが溝とかみ合っていることを確認してください。

・芝地の条件により、刈取り高さは多少変化することがあります。

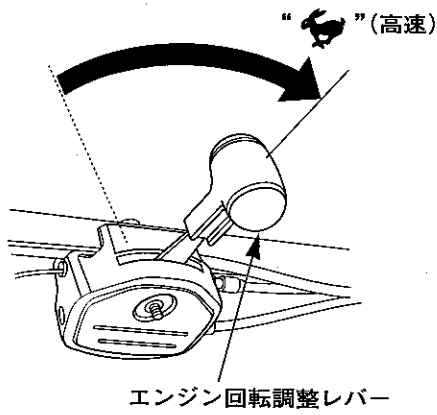
2 エンジン始動

エンジン始動要領に従ってエンジンを始動します。(エンジンのかけかた23頁、24頁参照)

3 運転操作

1．エンジン回転調整レバー

エンジン回転調整レバーを“🐇”(高速)にします。

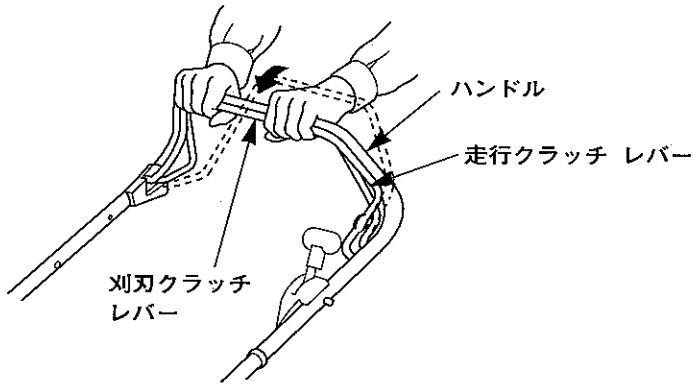


取扱いのポイント

- 刈刃クラッチ　レバーはしっかり握ってください。
- 刈刃の回転に異常がある場合は、お買いあげ販売店で点検・修理を受けてください。

2．走行クラッチレバー

刈刃クラッチ　レバーとハンドルを一緒に握ったままにして、走行クラッチレバーを前方に操作すると本機が自走します。



⚠注意

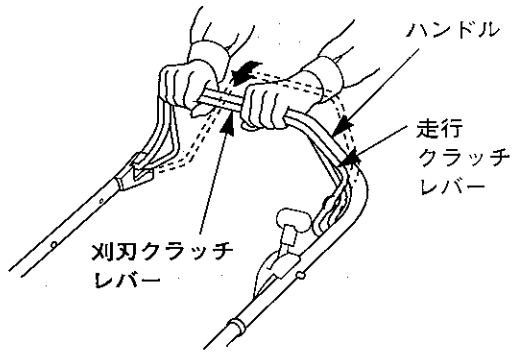
本機からはなれる場合は必ず刈刃クラッチ　レバーをはなし、“停止”位置にしてください。

4 刈取り作業

⚠警告

作業中障害物に当ったときは、エンジンを停止し点火プラグ　キャップをはずしてから、本機に損傷がないか点検してください。そのまま作業を続けると損傷した部品が飛散し大ケガをするおそれがあります。
損傷した部品を交換するときは、お買いあげ販売店にご相談ください。

《自走刈り》
エンジンを始動し、刈刃の回転が安定したところで走行クラッチ　レバーを握り、刈取り作業を行います。



⚠注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、本機の速度に合わせ行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

取扱いのポイント

エンジン回転が低いまま作業すると、エンジンが止まったり仕上がりが不均一になることがあります。

・方向転換は、走行クラッチ　レバーをはなし、ハンドルを押し下げながら前輪を浮かして行います。前方の飛散物に注意をしながら行ってください。

《手押し刈り》
エンジンを始動し、刈刃の回転が安定したら本機を手で押して作業します。
(このとき走行クラッチ　レバーは使用しません)

⚠注意

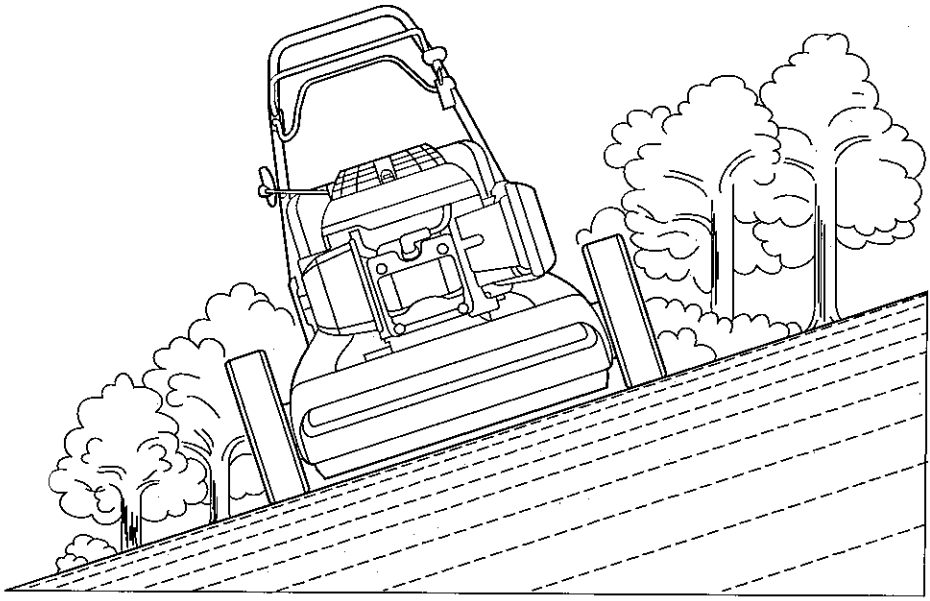
作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、走らないで行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

⚠警告

急な斜面や起伏の激しいところでは作業しないでください。斜面や起伏のあるところでは本機が安定せず転倒するおそれがあります。

《斜　面》

・斜面での芝刈りは上下方向ではなく、横方向（等高線方向）に行ってください。
・斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。
・急な斜面では本機を使用しないでください。



《起　伏》

・起伏の多い所での芝刈りは十分に速度を落とし、足もとに注意してハンドルをしっかりと握り作業してください。

5 収納袋の脱着

⚠警告

収納袋の脱着は、必ずエンジンを停止してから行ってください。刈刃カバー内の石などの異物が飛び出し大ケガをするおそれがあります。

《取外し方》

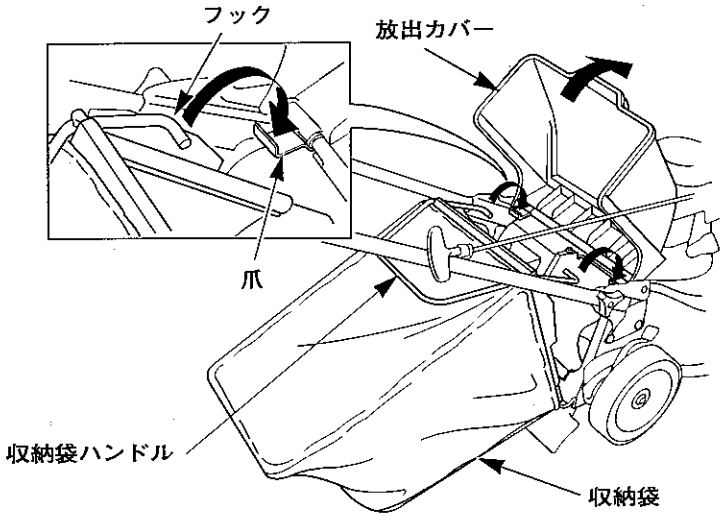
1．本機の放出カバーを開きます。
2．収納袋ハンドルを持ち上げながら後方に引いて取外します。

《取付け方》

1．本機の放出カバーを開きます。
2．収納袋のフレーム先端のフックを爪に引っ掛けて取付けます。

⚠警告

- 収納袋が確実に取付けられていることを確認してください。作業中に外れると放出物によってケガをするおそれがあります。
- 収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷しているときは新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。



取扱いのポイント

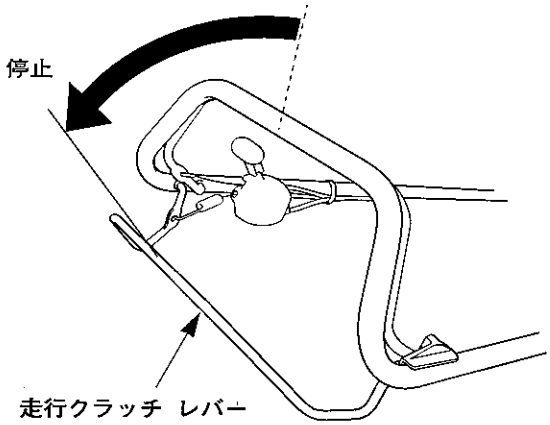
収納袋が目詰まりしているときは収納能力が落ちます。水洗いをし十分に乾燥させて使用してください。

緊急停止の場合

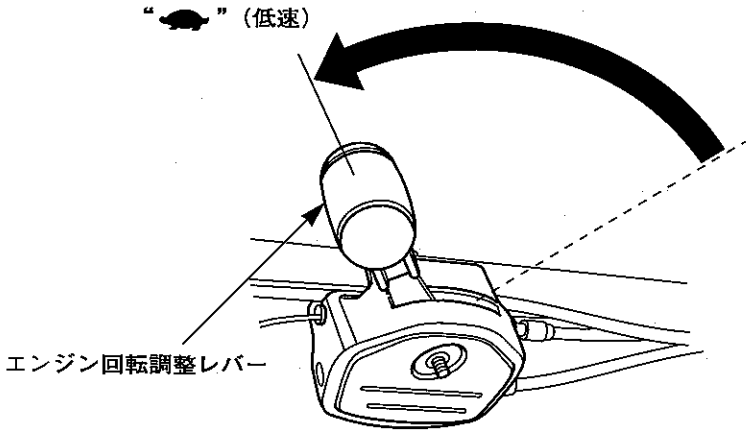
刈刃クラッチ レバーをはなし、“**停止**”の位置に戻します。

通常停止の場合

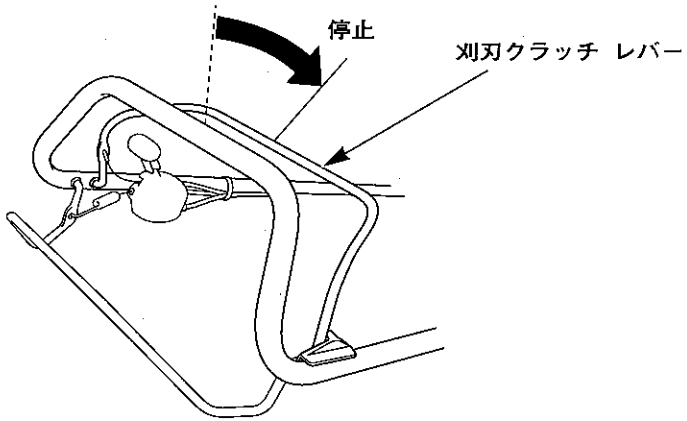
1．走行クラッチ レバーをはなします。



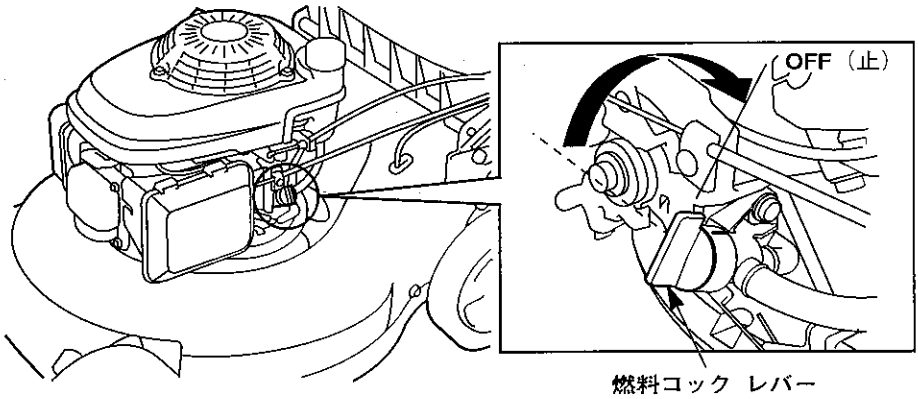
2．エンジン回転調整レバーを“🐢”（**低速**）にします。



3．刈刃クラッチレバーをはなし、“**停止**”の位置にします。



3．燃料コック レバーを“**OFF**”（止）に合わせます。



定　期　手　入　れ　を　行　い　ま　し　ょ　う

定期点検整備項目

お買いあげいただきました芝刈機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期（注3）		作業前点検	初　回 5時間 運転時	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	1年毎 または 200時間 運転毎
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○	○		
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○（注1）		
	交換					○
刈刃ボルトの締付け	点検	○				
刈刃ホルダの締付けボルト	点検	○				
刈刃の状態	点検	○				
収納袋	点検・清掃	○				
本機廻りの点検、各部の清掃		○				
レバーの作動	点検	○				
エンジンの作動	点検	○				
点火プラグ	点検・調整				○	
	交換					○
フライホイール ブレーキ	点検				○（注2）	
走行クラッチ ケーブル	点検・調整		○		○	
走行ベルト	交換					○（注2）
エンジン回転調整ケーブル	点検・調整					○（注2）
吸入・排気弁のすき間	点検・調整					○（注2）
燃焼室	清掃	250時間運転後毎（注2）				
燃料タンク・フィルタ	清掃					○（注2）
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（注2）				

（注1）ホコリの多い所で使用した場合、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

（注2）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

（注3）点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：5時間運転時、以後：6ヶ月毎または50時間運転毎

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30） またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《規定量》 0.55ℓ

《交換のしかた》

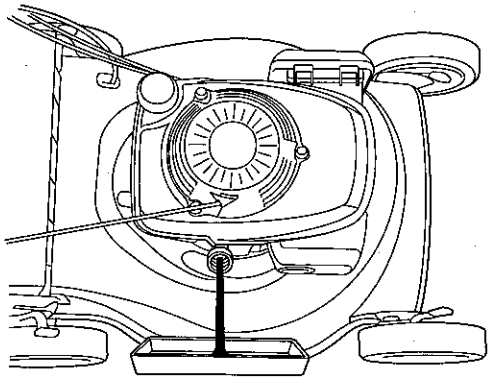
⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどなどをするおそれがあります。

1．エンジンを停止し、刈刃の回転が確実に停止していることを確認してから点火プラグ キャップを取外します。
2．燃料コック レバーを“**OFF**”（止）にします。
3．エンジン オイル給油キャップを外し、本機を給油口側に傾けオイルを抜きます。

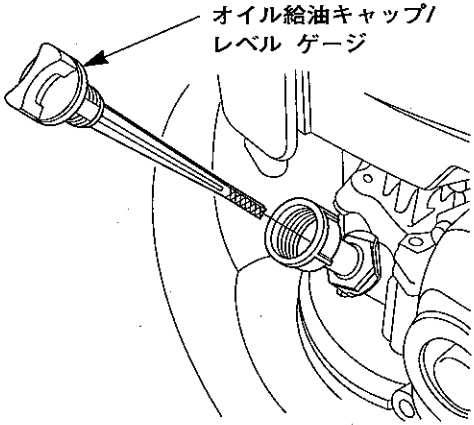
⚠警告

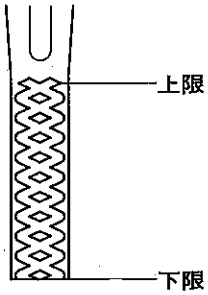
本機を傾けるとガソリンが洩れる場合があります。
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。



4．エンジン オイルが完全に抜けたら本機を元に戻し水平な場所に置いてください。

5．エンジン オイルを給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。18頁参照)
6．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。





取扱いのポイント

・交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
・オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

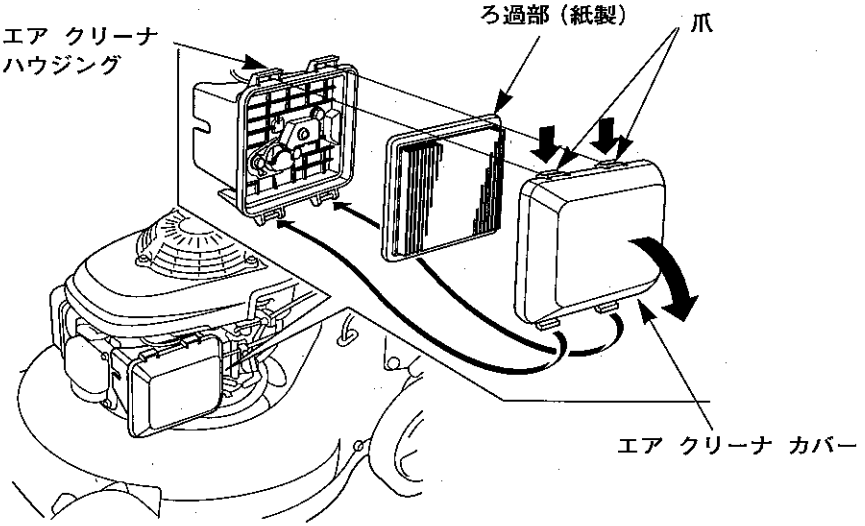
エア クリーナ（空気清浄器）の清掃

空気清浄器が目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

《清掃時期》 3ヵ月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間運転毎。

《清掃》

1．エア クリーナ カバーの爪を押し下げて、エア クリーナ ハウジングからカバー、ろ過部（紙製）を取外します。
2．ろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、又は軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。



3．ろ過部（紙製）、エア クリーナ カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

- エア クリーナ カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア クリーナ カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付けかたが悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響を与えます。

《交換時期》
1年毎または200時間運転毎。

点火プラグの清掃、調整、交換

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

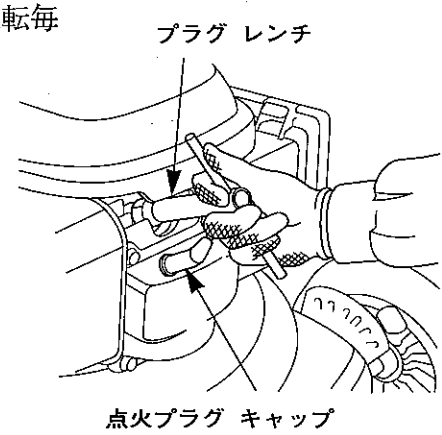
《清掃時期》 6ヶ月毎または100時間運転毎

《清　掃》

1．点火プラグ キャップを外し、プラグ レンチで点火プラグを取外します。

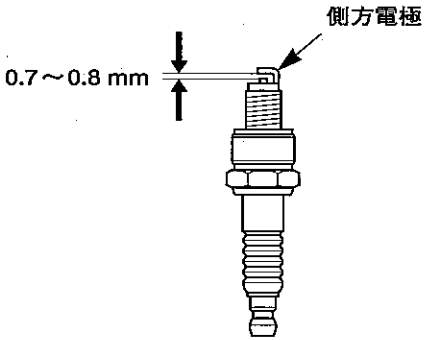
2．点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

・プラグ クリーナが無いときは、ワイヤ ブラシで汚れを落としてください。



《調　整》

・側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8 mmに調整します。



《交換時期》

1年毎または200時間運転毎

《標準点火プラグ》

BPR6ES　　(NGK)

取扱いのポイント

・故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締込んでください。

・点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

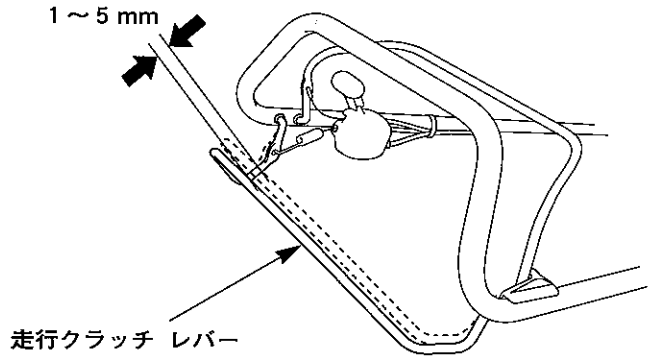
走行クラッチ ケーブルの調整

走行クラッチ ケーブルの調整が正しくないと、クラッチがすべり走行できません。

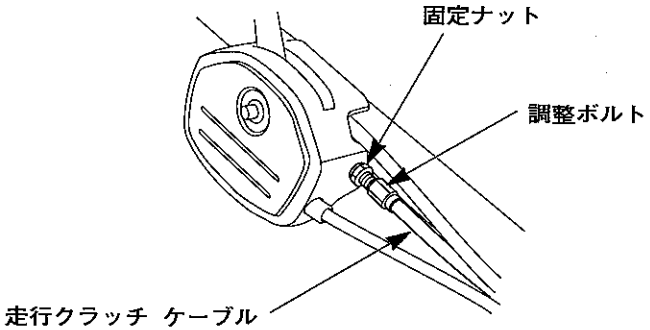
《調整時期》 初回：5時間運転時、以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

《調 整》

1．レバー先端の遊びが1～5 mmになるように調整します。



2．調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして行います。



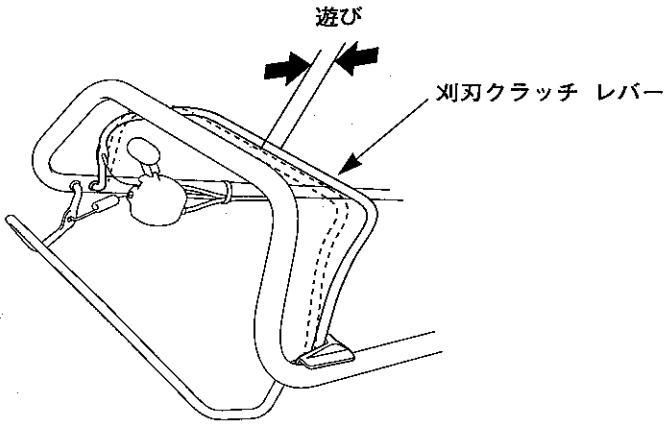
3．固定ナットを確実に締付けます。

4．調整後、エンジンを始動し走行クラッチ レバーが正しく作動することを確認してください。走行クラッチ レバーを握ると本機は走行し、はなすと止まります。

5．上記方法で調整しても走行しない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

刈刃クラッチ レバーの作動点検

刈刃クラッチ レバーは、刈刃の回転を停止するフライホイール ブレーキを作動します。
エンジン始動後に刈刃クラッチ レバーを離してエンジンが停止するか確認してください。
停止しない場合やレバーの遊びがないときはお買いあげ販売店にお申しつけください。



取扱いのポイント

フライホイール ブレーキの点検は6ヶ月毎または100時間運転毎にお買いあげ販売店にお申しつけください。

長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

★長期間使用しない場合、または作業を終り長時間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後、マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

エンジンを停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップを点火プラグから外してください。

1 燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜いてください。

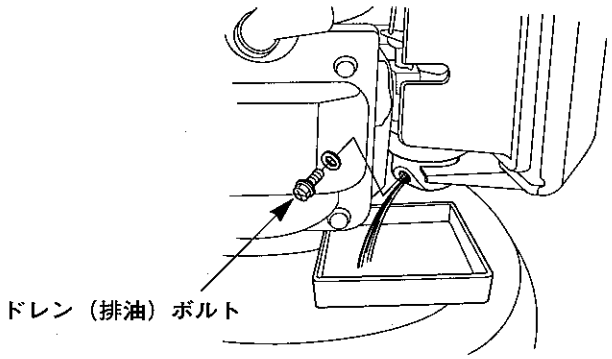
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《抜き方》

1．燃料コック　レバーを“**ON**”（出）の位置にします。
2．ドレン　ボルトを外し、燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを容器に受けてください。

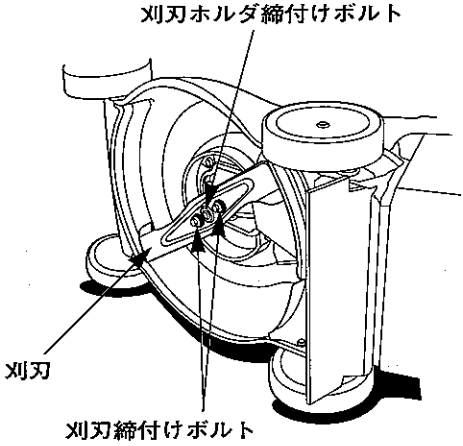


3．完全に燃料が抜けたら、ドレン　ボルトを確実に締付けてください。
4．燃料コック　レバーを“**OFF**”（止）の位置にします。

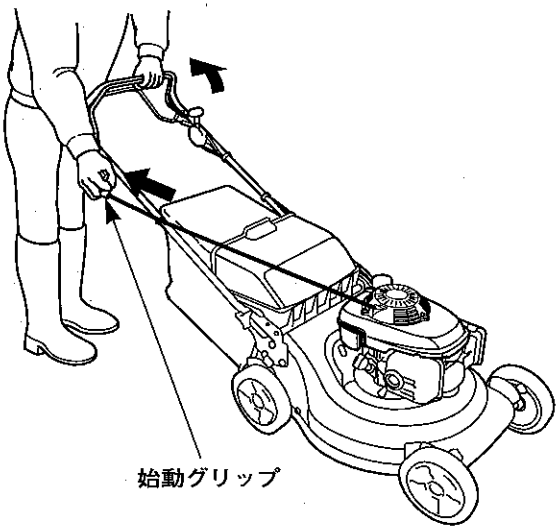
2 エンジン オイルを交換してください。(交換方法は33頁参照)

3 エア クリーナを清掃してください。(清掃方法は36頁参照)

4 本機を右側に傾斜させ、刈刃及び各部を清掃し、締付けを点検してください。刈刃にエンジン オイルを塗布してください。



5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



⑥収納袋を取外し、清掃してください。
収納袋が目詰まりをしているときは、水洗いをし、十分に乾燥させてから取付けてください。

⑦カバーをかけ、風通しの良い場所に保管してください。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1．始動方法は取扱説明書通りですか？
2．ガソリンはありますか？
3．エンジン オイルは規定量ありますか？
4．点火プラグ キャップは確実に取付けられていますか？
5．点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？
6．刈刃クラッチは確実に握っていますか？

⚠注意

本機に異常を感じた場合はただちに作業を中止し、エンジンを停止して各部を点検してください。

刈刃クラッチ レバーをはなしても刈刃が止まらないときは、

・刈刃クラッチ レバーは確実に“**停止**”の位置になっていますか？
・刈刃クラッチ レバー先端部の遊びがありますか？
・エンジン回転調整レバーを“**低速**”の位置にし、注意して燃料コック レバーを“**OFF**”（止）に合わせ、刈刃の回転が確実に停止していることを確認し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

走行クラッチ レバーを握っても走行しないときは、

・走行クラッチ ケーブルの調整は正しいですか？（38頁参照）

走行クラッチ レバーをはなしても止まらないときは、

・走行クラッチ ケーブルの調整は正しいですか？（38頁参照）

芝刈作業時、芝の刈跡が悪いときは、

・刈刃に異常がありませんか？（20～21頁参照）

芝刈作業時、収納袋まわりから芝が吹き出すときは、

・収納袋はきちんと本機に装着されていますか？
・収納袋はやぶれていませんか？

☆上記項目で調整が必要な場合は、手順に従って調整してください。
調整できない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

主　要　諸　元

名　称	HRG536H
全　長	1,637 mm
全　幅	585 mm
全　高	970 mm
刈　幅	530 mm
刈　高	約19～80 mm（6段階）
収納袋容量	61 ℓ
乾燥重量	36.2 kg

エンジン

名　称	GCV160
形　式	強制空冷　4サイクル　頭上弁式
排気量	160 cm^3
内径×行程	64×50 mm
点火時期	上死点前20°
点火方式	トランジスタ マグネト式
オイル容量	0.55 ℓ
燃料タンク容量	1.1 ℓ
点火プラグ	BPR6ES（NGK）

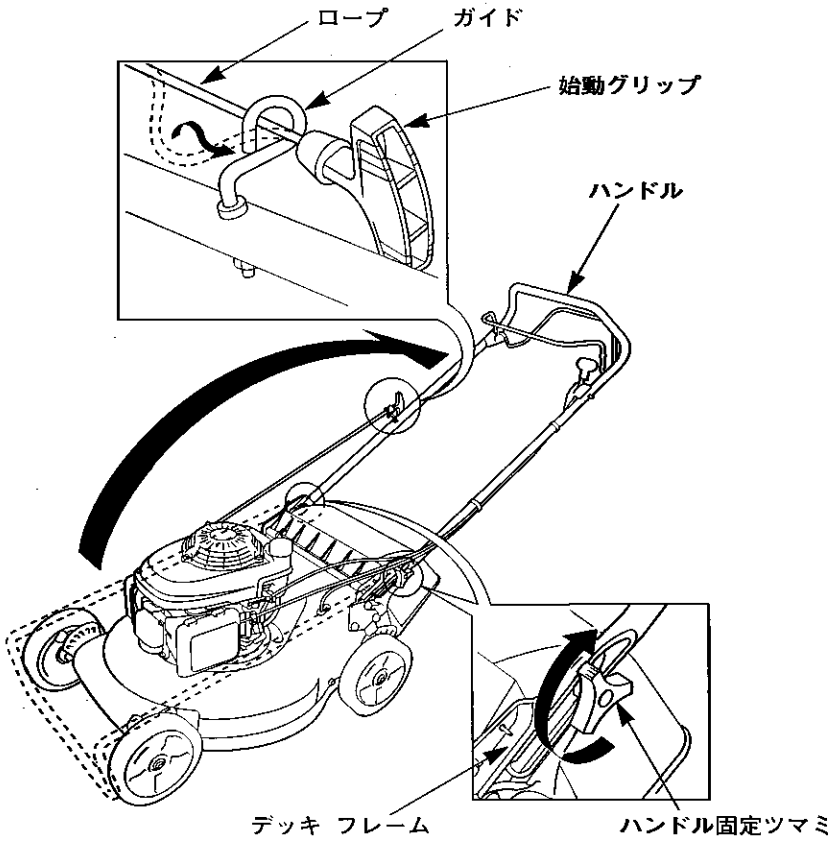
注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

ハ　ン　ド　ル　の　組　付　け　か　た

次の手順と要領でハンドルを組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け関係は同じですのでご了承ください。

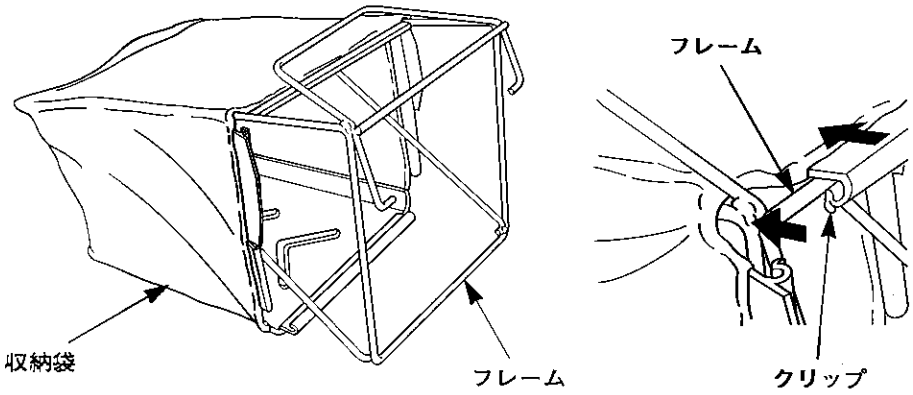
ハンドルの組付け

1．ハンドル固定ツマミをゆるめて、ハンドルが両側のデッキ フレームの溝に確実にはいるまで矢印の方向に起します。
2．ハンドルを組付けるまえに、ケーブル（エンジン回転調整ケーブル、走行クラッチ ケーブルおよびフライホイール ブレーキ ケーブル）が左側ハンドルの下方外側を通っていることを確認してください。
3．両側のハンドル固定ツマミをしっかり締付けます。
4．始動グリップを引っ張って、始動グリップのロープをハンドルについているガイドの中に通します。



収納袋の組立

1．収納袋のフレームを収納袋に差込みます。
2．収納袋のプラスチック製のクリップをフレームにはめ込みます。



収納袋の取付け

1．本機の放出カバーを開きます。
2．収納袋のフレーム先端のフックを爪に引っ掛けて取付けます。